

令和7年3月

令和7年	1月	～	3月期	実績
令和7年	4月	～	6月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目 次

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

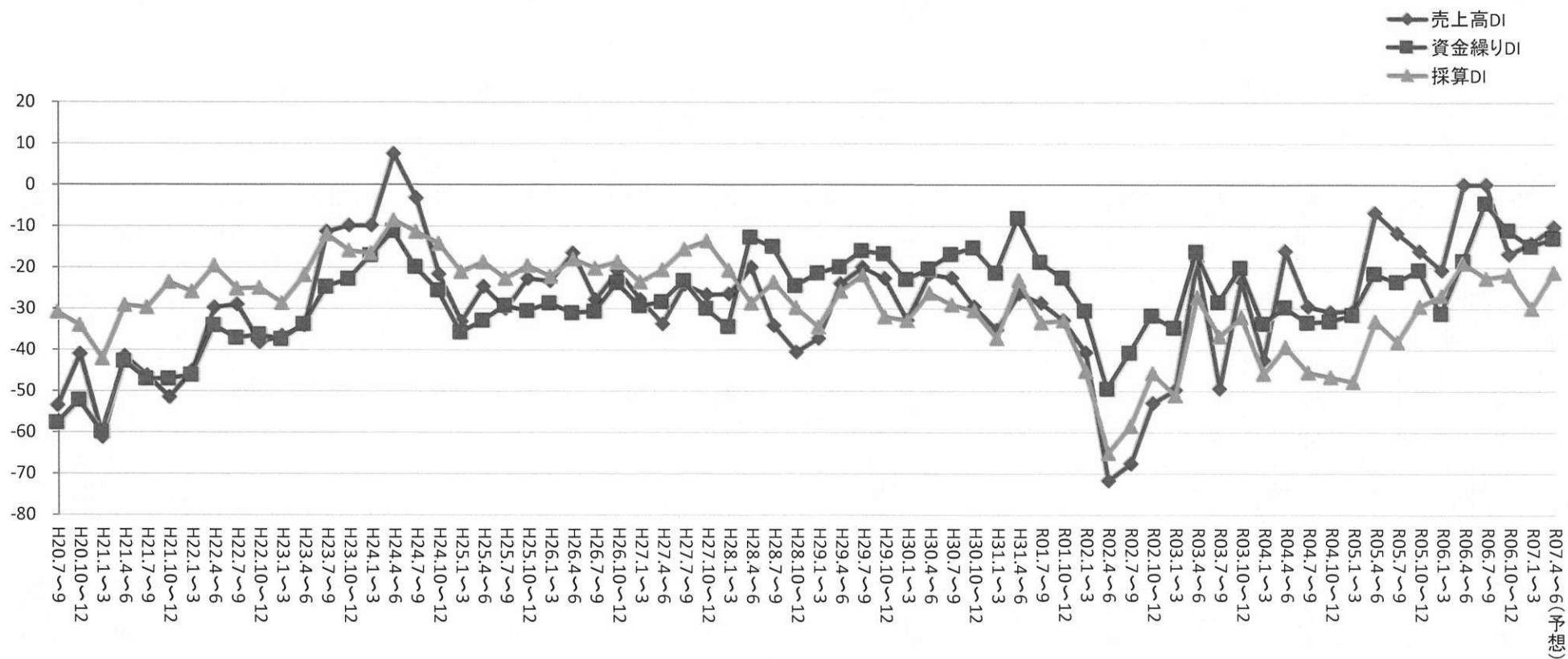
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

〔岩手県 産業全体〕

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和5年 4～6月	7～9月	10～12月	令和6年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	(今期) 令和7年 1～3月	(見通し) 4～6月
製 造 業	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 晴
建 設 業	 曇	 雨	 曇	 曇	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 曇
小 売 業	 曇	 薄 曇	 雨	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

製造業と建設業の売上高D・Iが改善
サービス業は2期連続の悪化

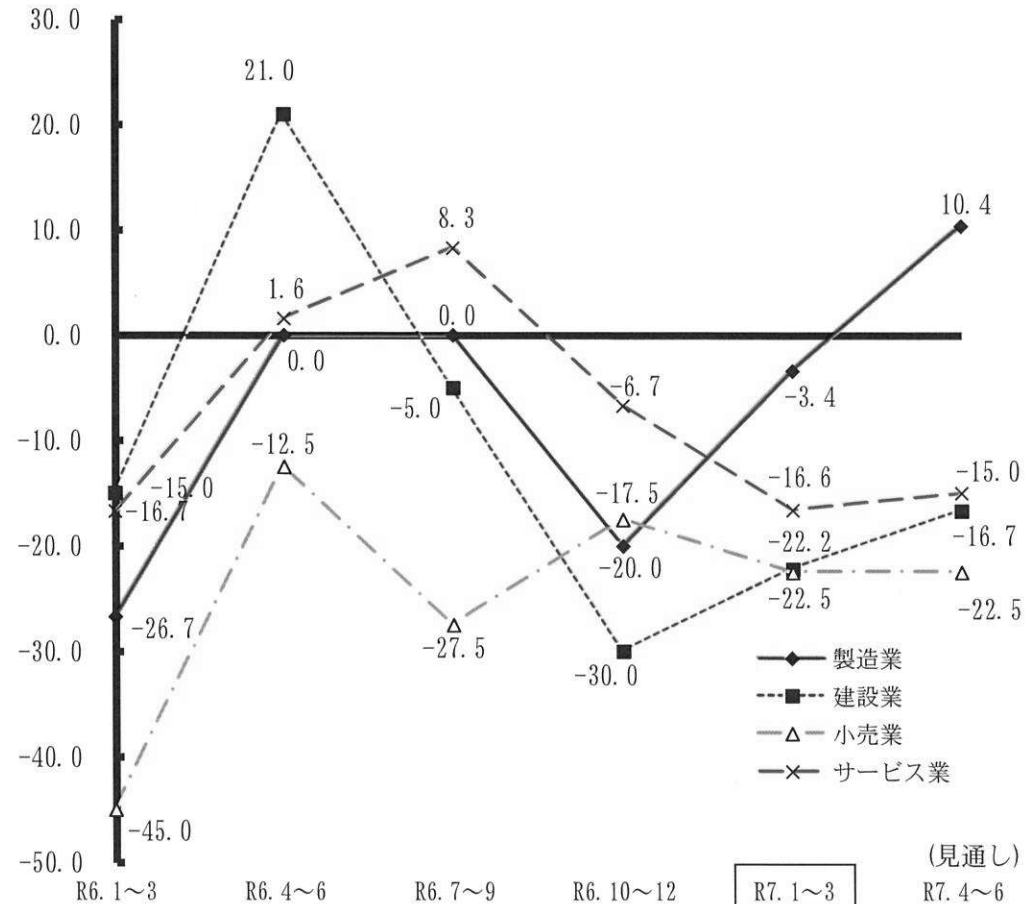
今期の売上高D・Iは、製造業と建設業が改善に転じましたが、小売業が悪化に転じ、サービス業は2期連続の悪化となりました。

前期大幅に悪化していた製造業は改善に転じてマイナス幅を大きく縮小、2期連続して大幅に悪化していた建設業は改善に転じています。他方、サービス業は2期連続の悪化となり、また、前期改善に転じていた小売業も再び悪化となりました。

製造業は16.6ポイントの増加によりにより△3.4まで上昇、建設業は7.8ポイントの増加により△22.2まで上昇、サービス業は2期連続の減少により△16.6まで低下、小売業も5.0ポイントの減少により△22.5まで低下しています。

来期は、製造業が2期連続の改善により、プラス域に到達、建設業も今期に引続き改善傾向が続きますが、サービス業、小売業はほぼ今期と横ばいにとどまる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

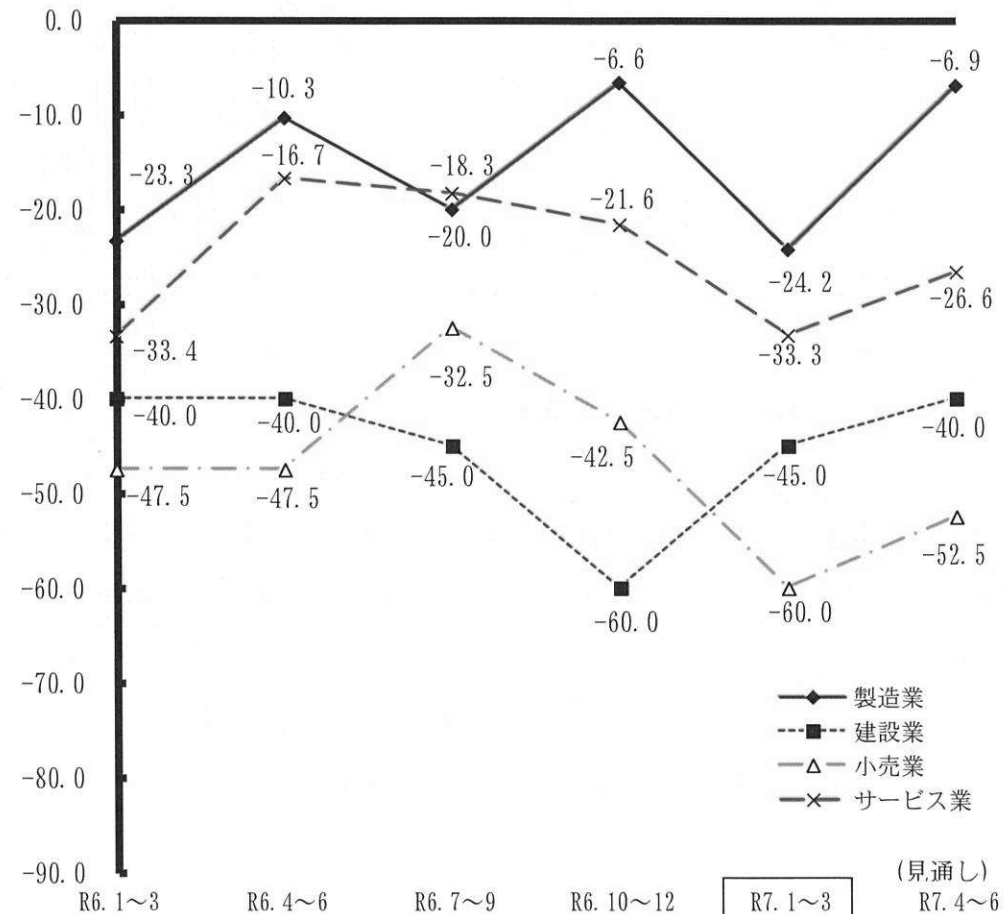
建設業を除く3業種の採算D・Iが悪化
建設業は二桁台の改善

今期の採算D・Iは、建設業のみが改善に転じましたが、製造業が悪化に転じ、サービス業は3期連続の悪化、小売業は2期連続の悪化となっています。

前期大きく低下していた建設業が15.0ポイントの増加により△45.0まで上昇、前期一桁台までマイナス幅を縮小していた製造業は悪化に転じ、17.6ポイント減少して△24.2まで低下、サービス業は11.7ポイントの減少により△33.3まで低下しました。小売業も17.5ポイントの大幅な減少により△60.0まで低下し、マイナス幅を拡大しています。

来期は、今期悪化していた製造業が再び改善に転じるほか、建設業は2期連続の改善、サービス業、小売業の2業種も改善に転じる

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

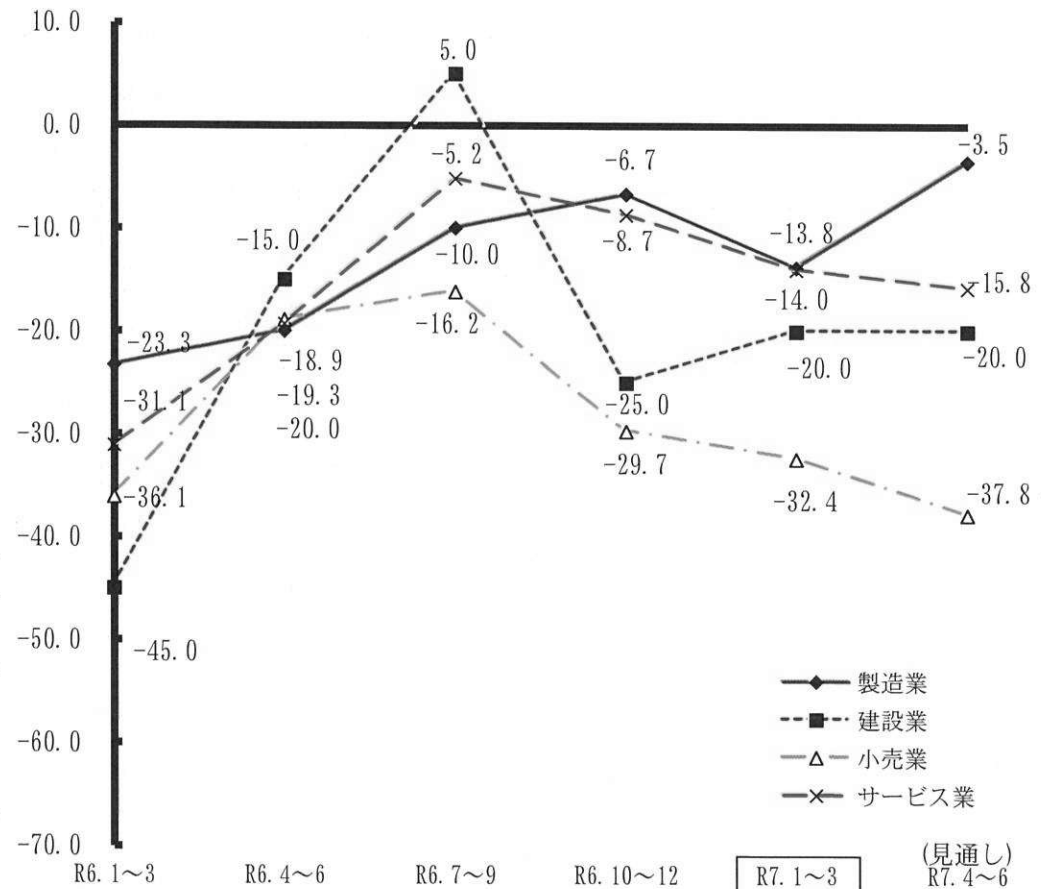
資金繰り

建設業の資金繰りが改善
サービス業、小売業は2期連続の悪化

前期大幅に悪化していた建設業において資金繰りD・Iが改善したものの、改善傾向にあった製造業が悪化に転じ、サービス業、小売業では2期連続の悪化となりました。

前期プラス域から大幅に悪化してマイナス幅を拡大していた建設業が改善に転じ、5.0ポイント増加して△20.0まで上昇、他方、3期連続して改善傾向にあった製造業は悪化に転じ、7.1ポイント減少の△13.8まで低下、またサービス業は2期連続の悪化となり△14.0まで低下、小売業も2期連続の悪化となり、2.7ポイント減少して△32.4まで低下し、マイナス幅を拡大しています。

来期は、製造業において資金繰りD・Iの改善が見込まれるものの、建設業は今期と横ばい、サービス業、小売業においては今期に引続き悪化することが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

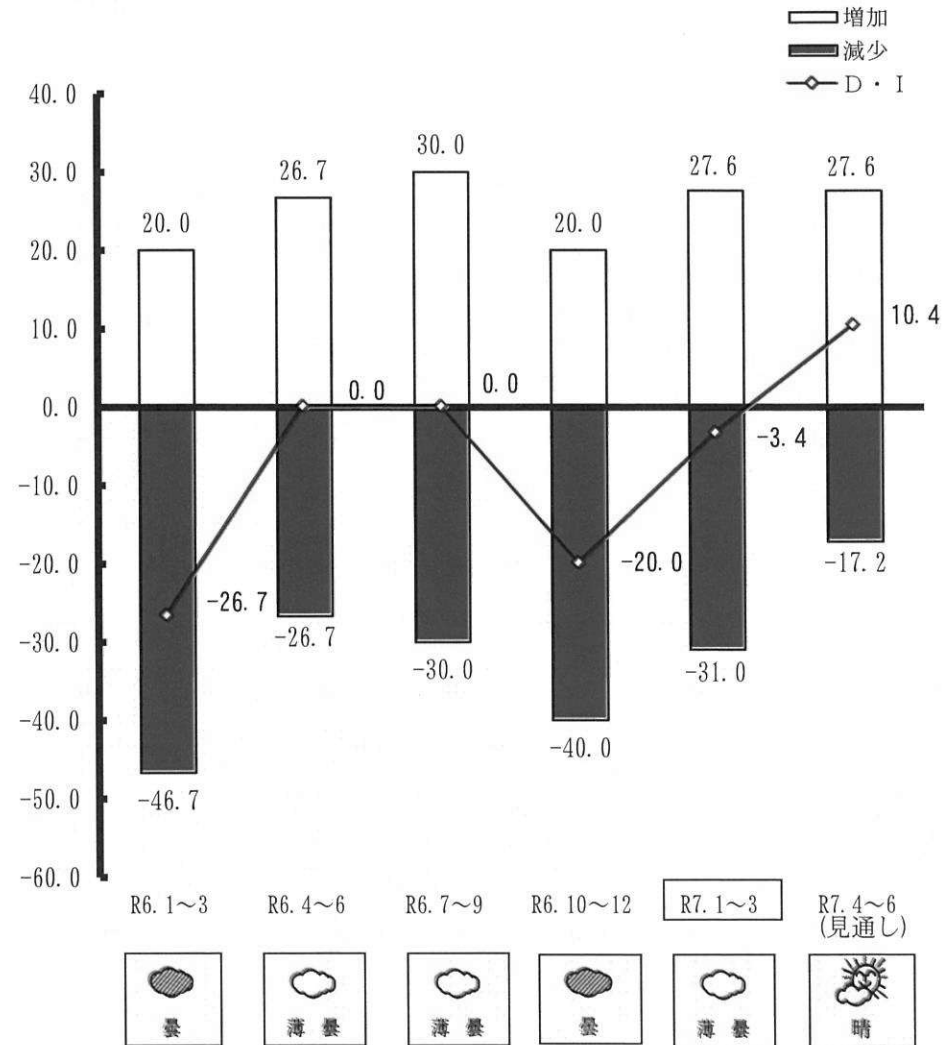


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が7.6ポイント増加し、売上高減少企業の割合が9.0ポイント減少したことにより売上高D・Iは16.6ポイントの大幅な増加となり△3.4まで上昇し、マイナス幅を一桁台まで縮小しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業割合が大幅に減少することから、売上高D・Iは2期連続の改善となり、景況天気図も薄曇りから晴れへと変化する



製造業の推移

採算

<今 期>

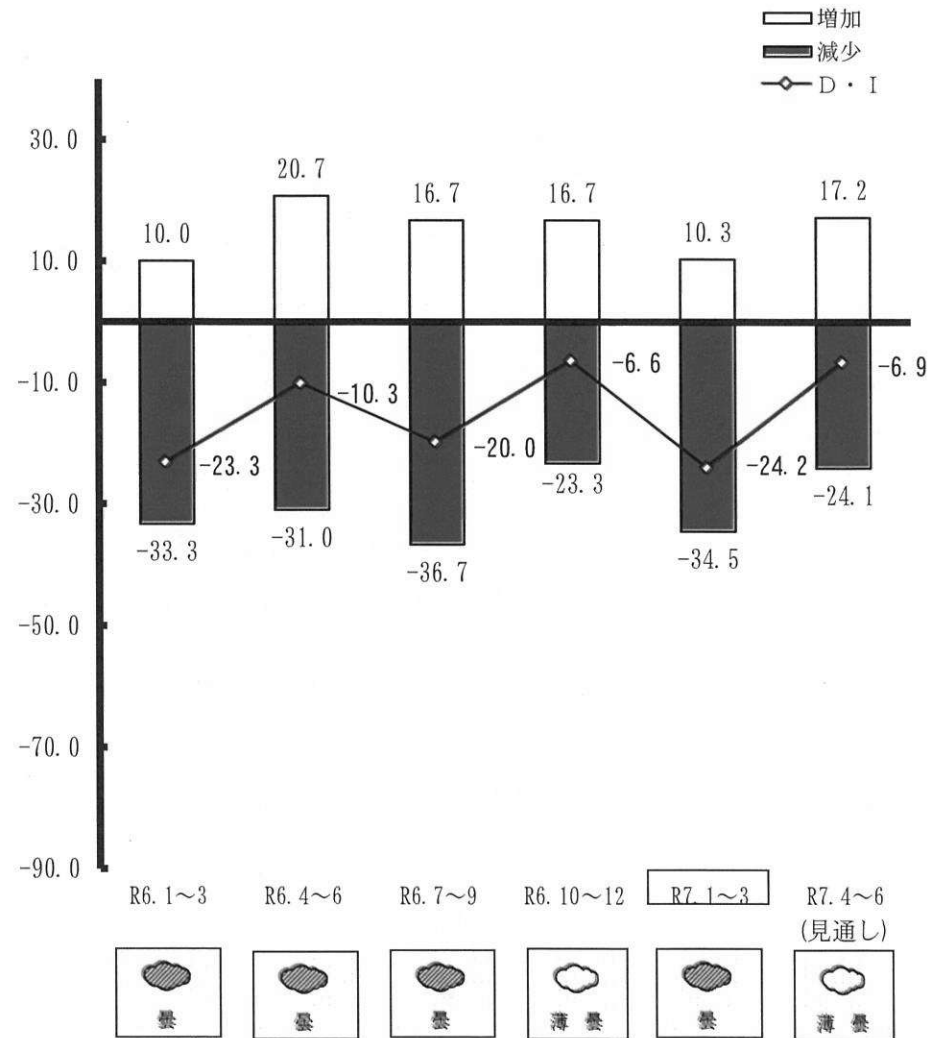


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が6.4ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が11.2ポイントの増加となったことから、採算D・Iは17.6ポイント減少して△24.2まで低下し、マイナス幅を拡大しています。

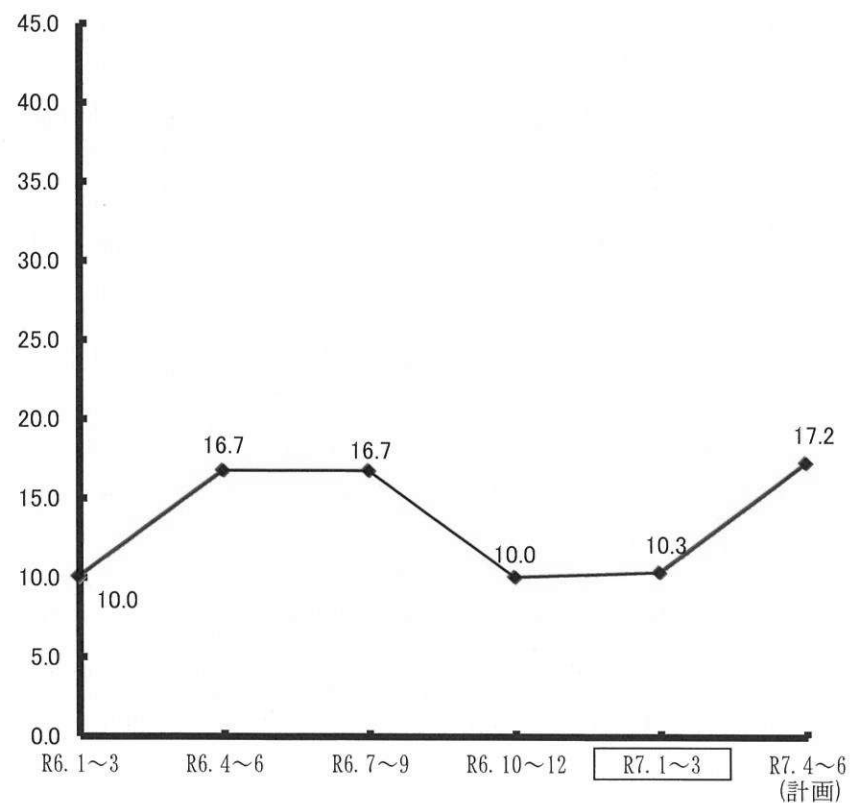
来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業が減少となることから、採算D・Iは再び改善に転じ、マイナス幅を一桁台まで縮小し、景況天気図も曇りから薄曇りへと変化することが見込まれています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は前期とほぼ横ばいの10.3にとどまりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が大幅に増加し、17.2まで上昇することが予想されています。



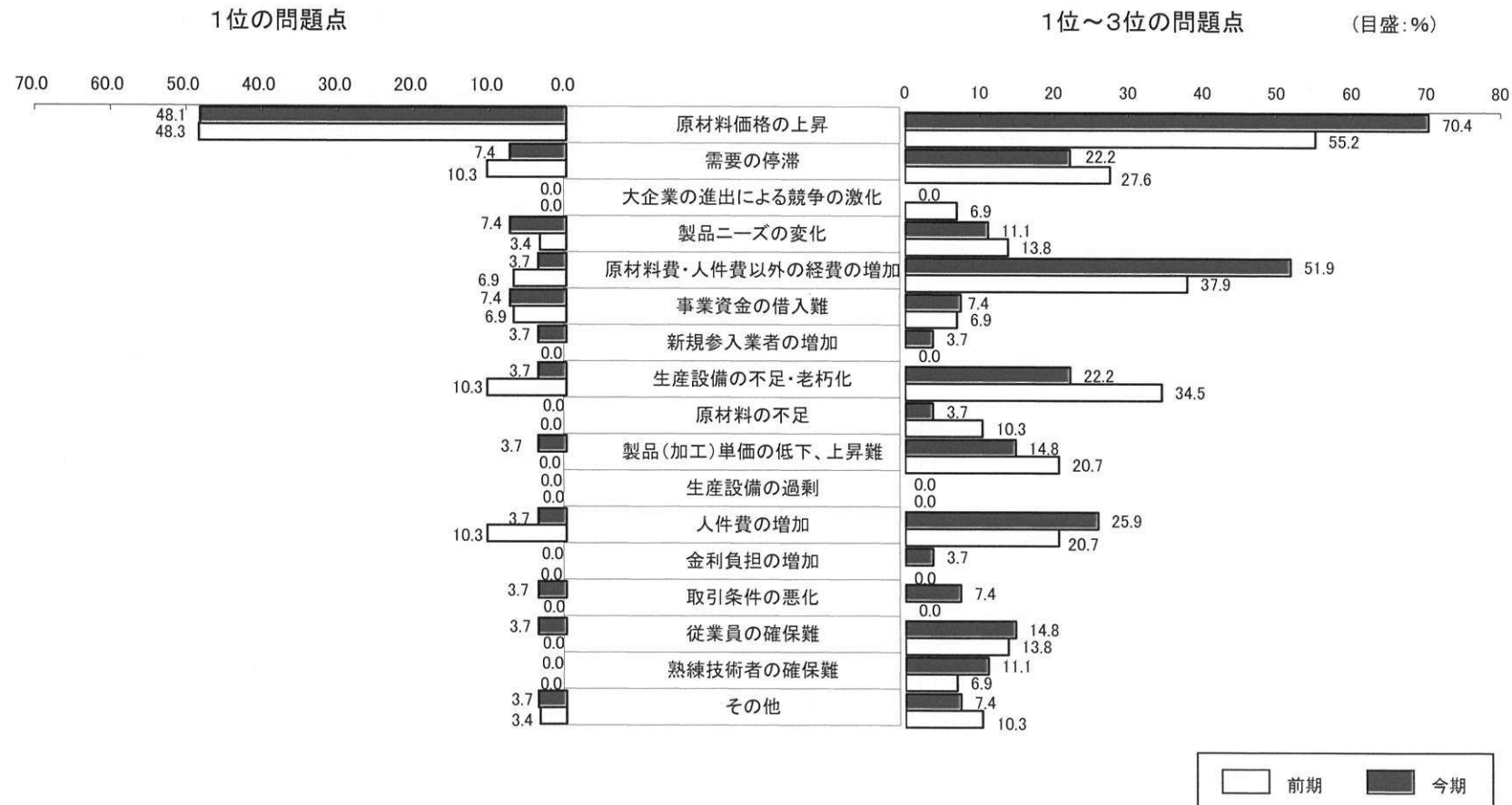
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



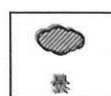
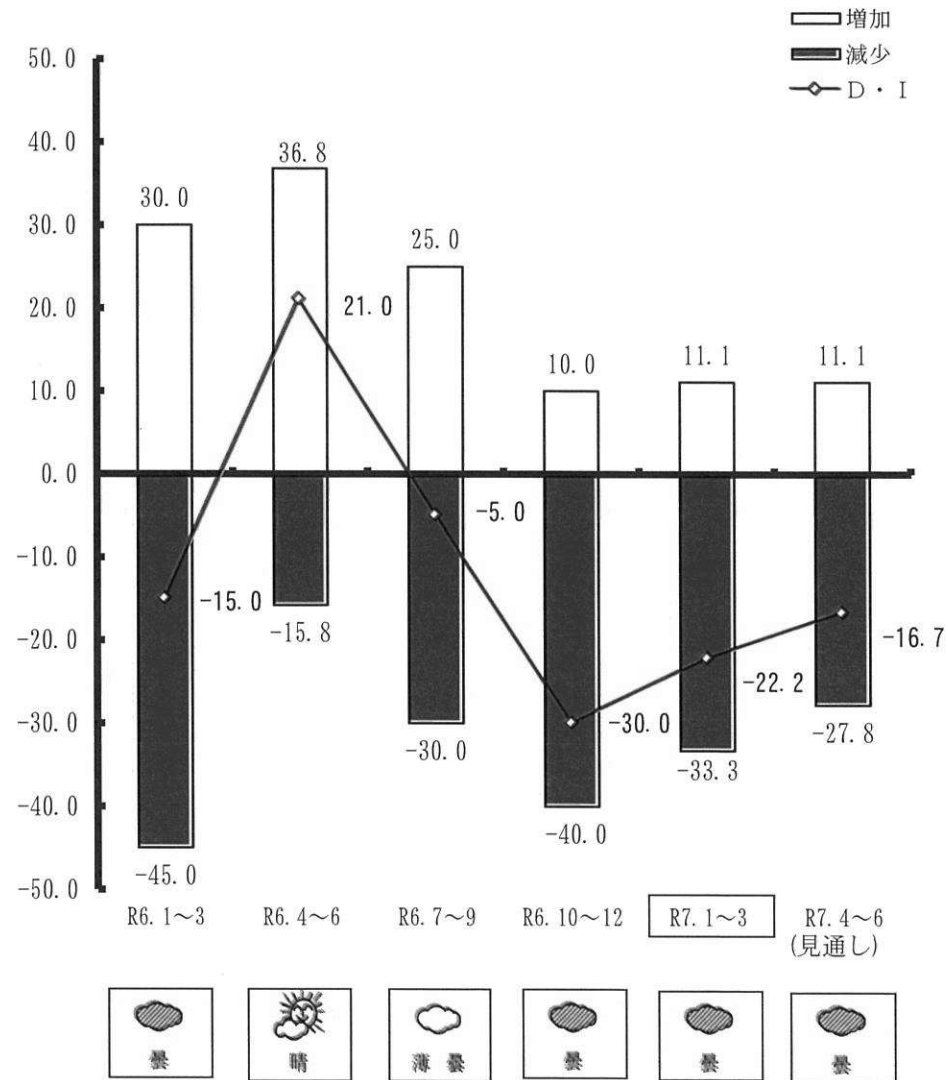
<来期見通し>



2期連続して悪化していた建設業の売上高D・Iは、今期は売上高が増加した企業割合は前期とほぼ横ばいの11.1にとどまったものの、売上高が減少した企業割合が6.7ポイントの減少となったため、売上高D・Iは改善に転じ、7.8ポイント増加して△22.2まで改善しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業の割合が減少することから、売上高D・Iは今期に引き続き改善することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

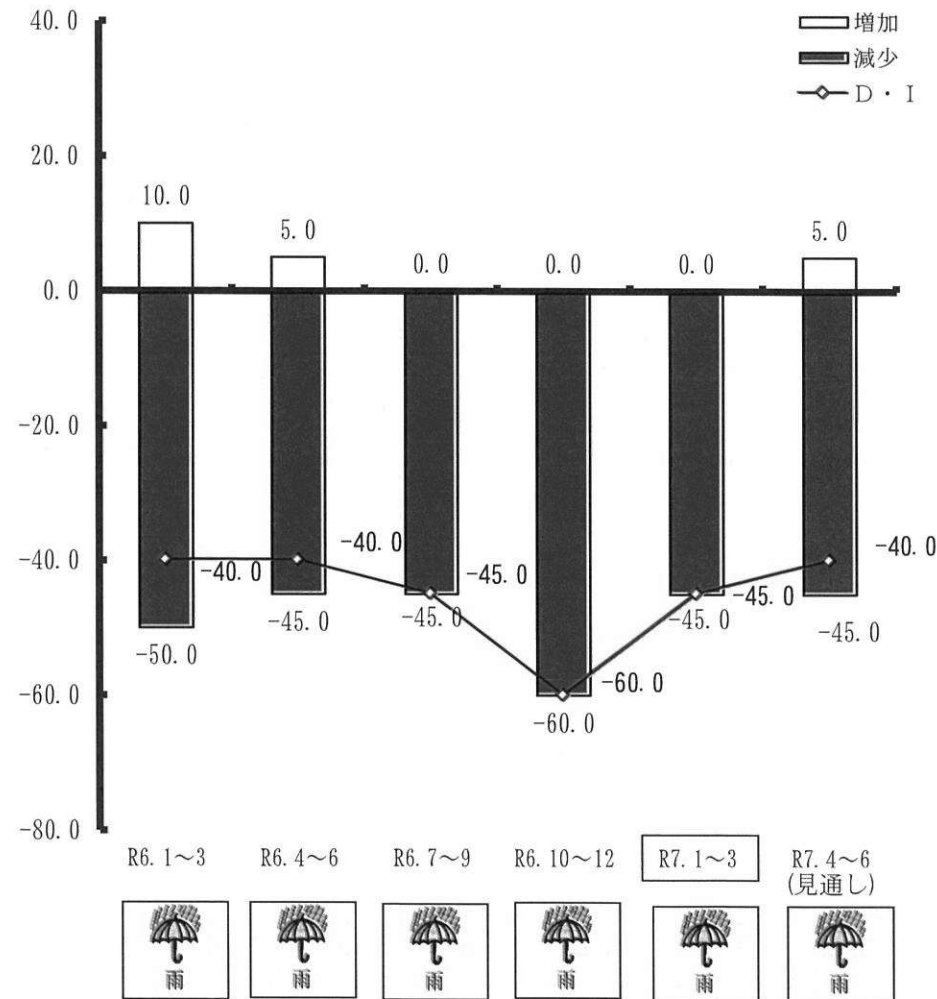
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、前期に引続きゼロとなった一方、採算の悪化を挙げた企業の割合が15.0ポイント減少したことから、採算D・Iは改善に転じ、△45.0まで改善していますが、依然として低いレベルにあります。

来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業が横ばいにとどまることから、採算D・Iは引き続き改善することが予想されています。

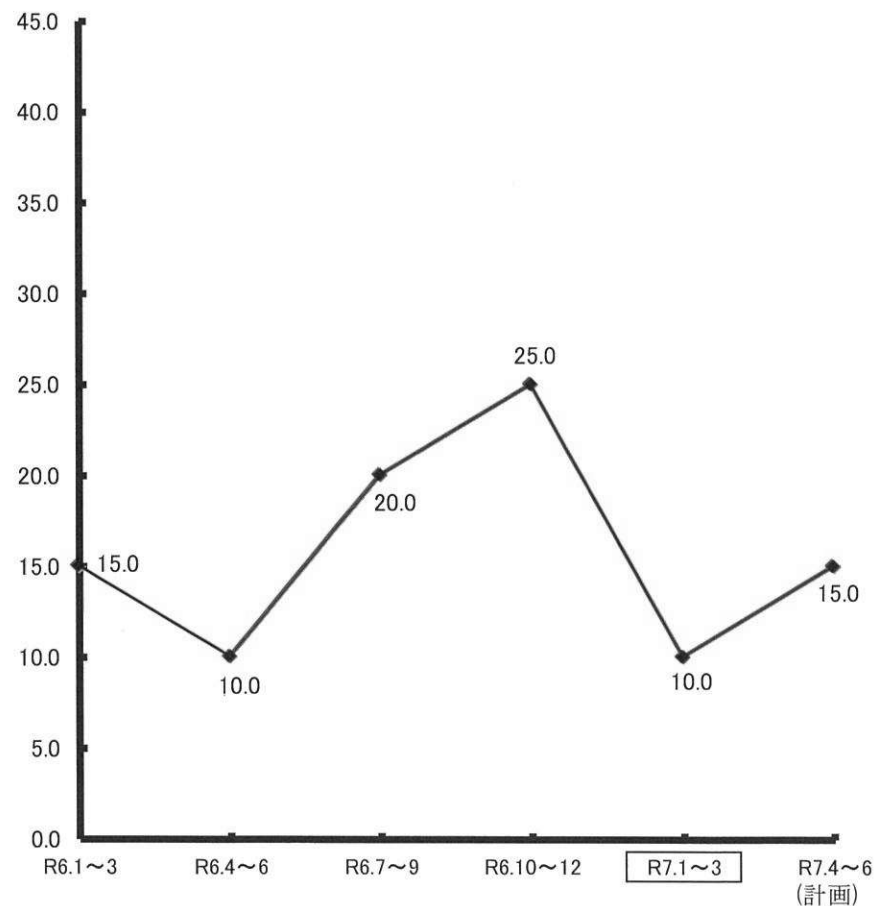


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期まで2期連続して増加しておりましたが、今期は減少に転じ、15.0ポイント減少して10.0にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は再び増加に転じ、5.0ポイント増加し、15.0程度となることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



建設業の推移

経営上の問題点

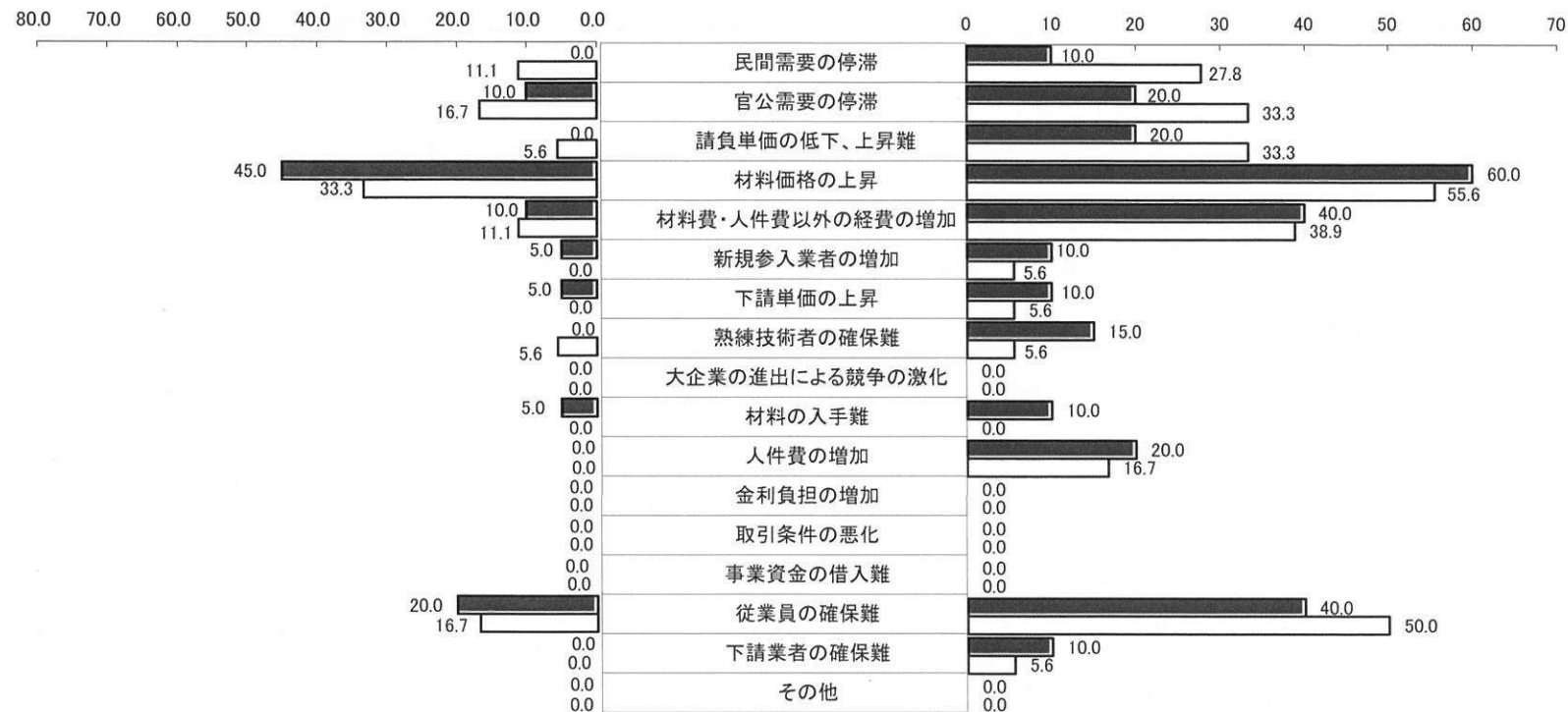
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛: %)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

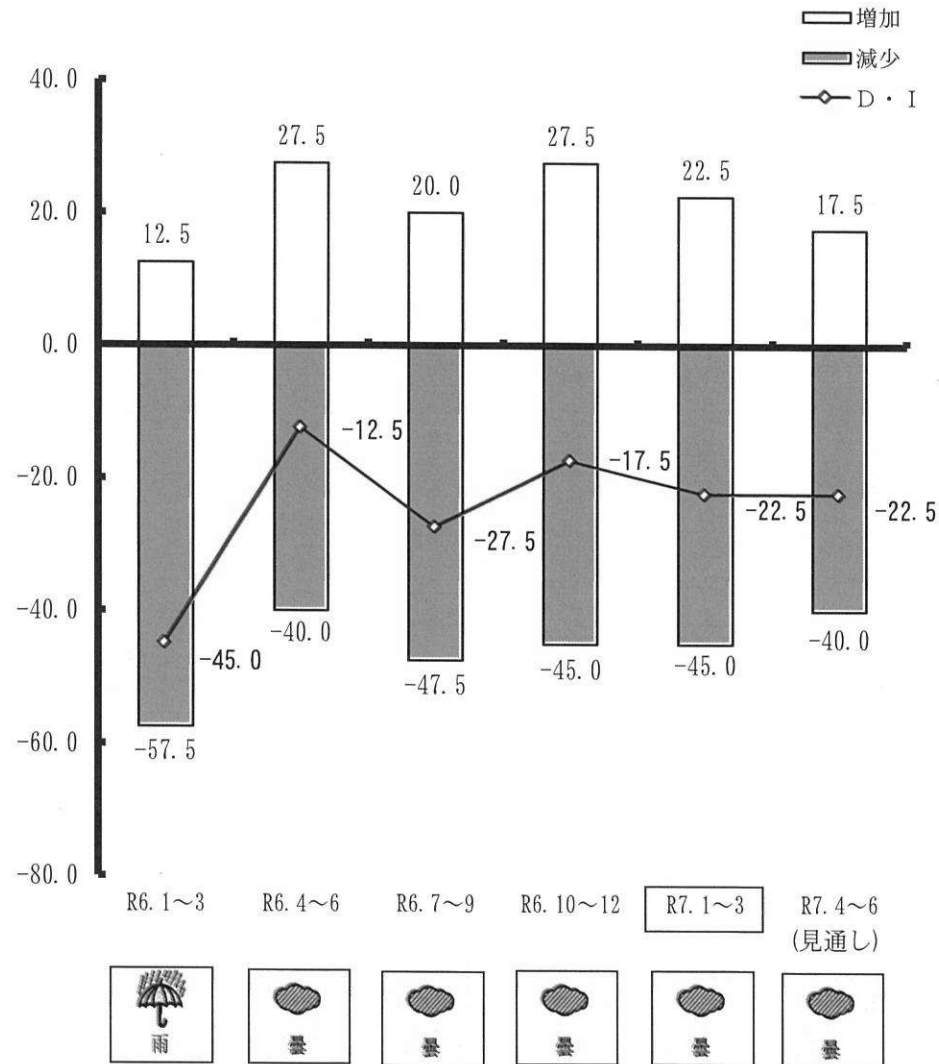


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が5.0ポイント減少し、売上高減少企業の割合が前期と横ばいとなったことにより、売上高D・Iは5.0ポイントの減少となり△22.5まで低下しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合の割合も減少することから、売上高D・Iは今期と横ばいとなる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

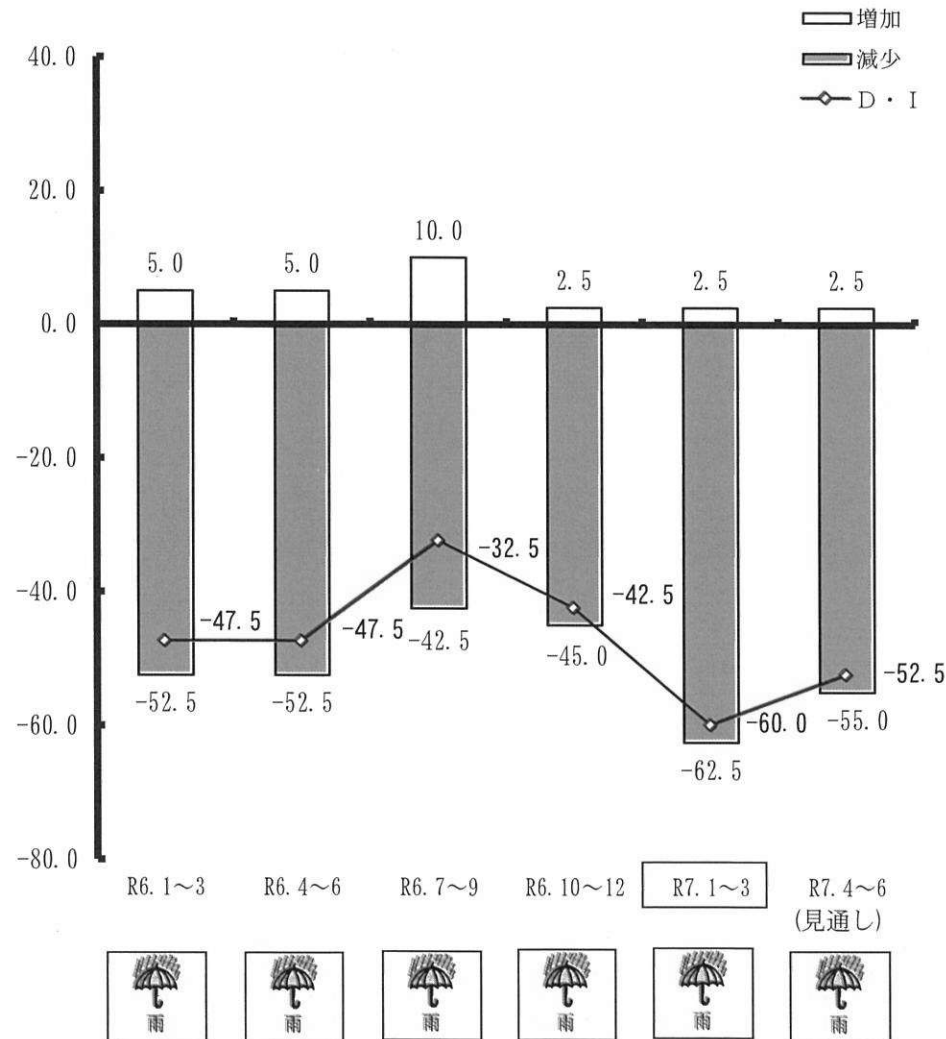


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、前期と同じレベルにとどまり、他方、採算が悪化した企業割合が17.5ポイント増加したことから、採算D・Iは17.5ポイント減少し、△60.0まで低下し、マイナス幅を大幅に拡大しました。

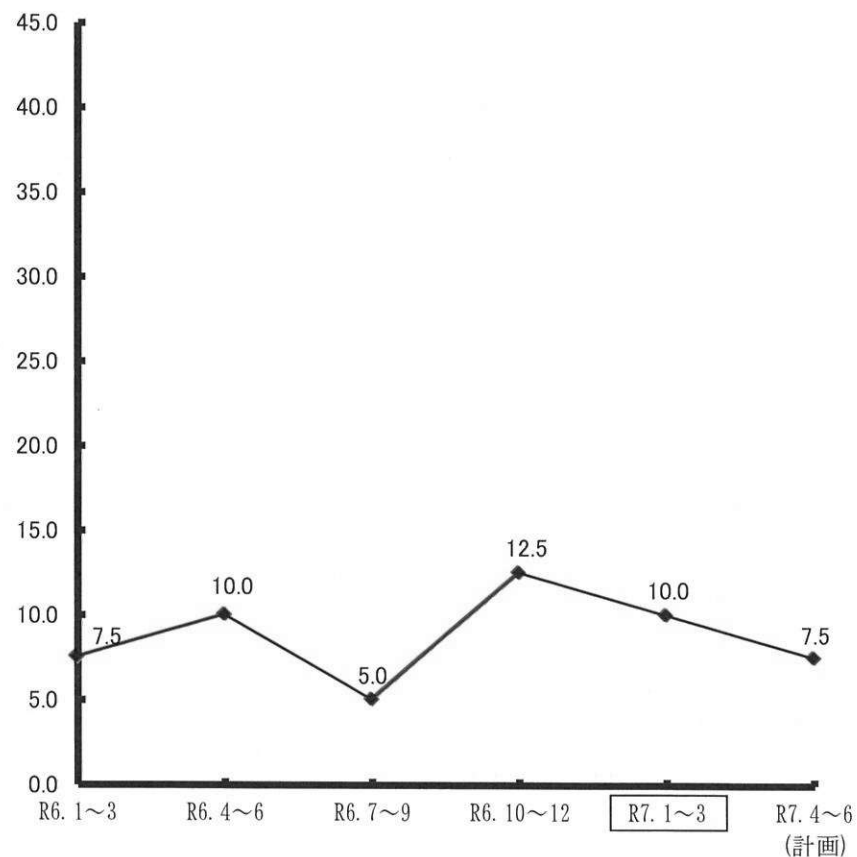
来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期と同レベルにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは改善に転じる見通しです。



設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より2.5ポイント減少して10.0にとどまりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は2.5ポイント減少し、7.5程度にとどまる見通しです。



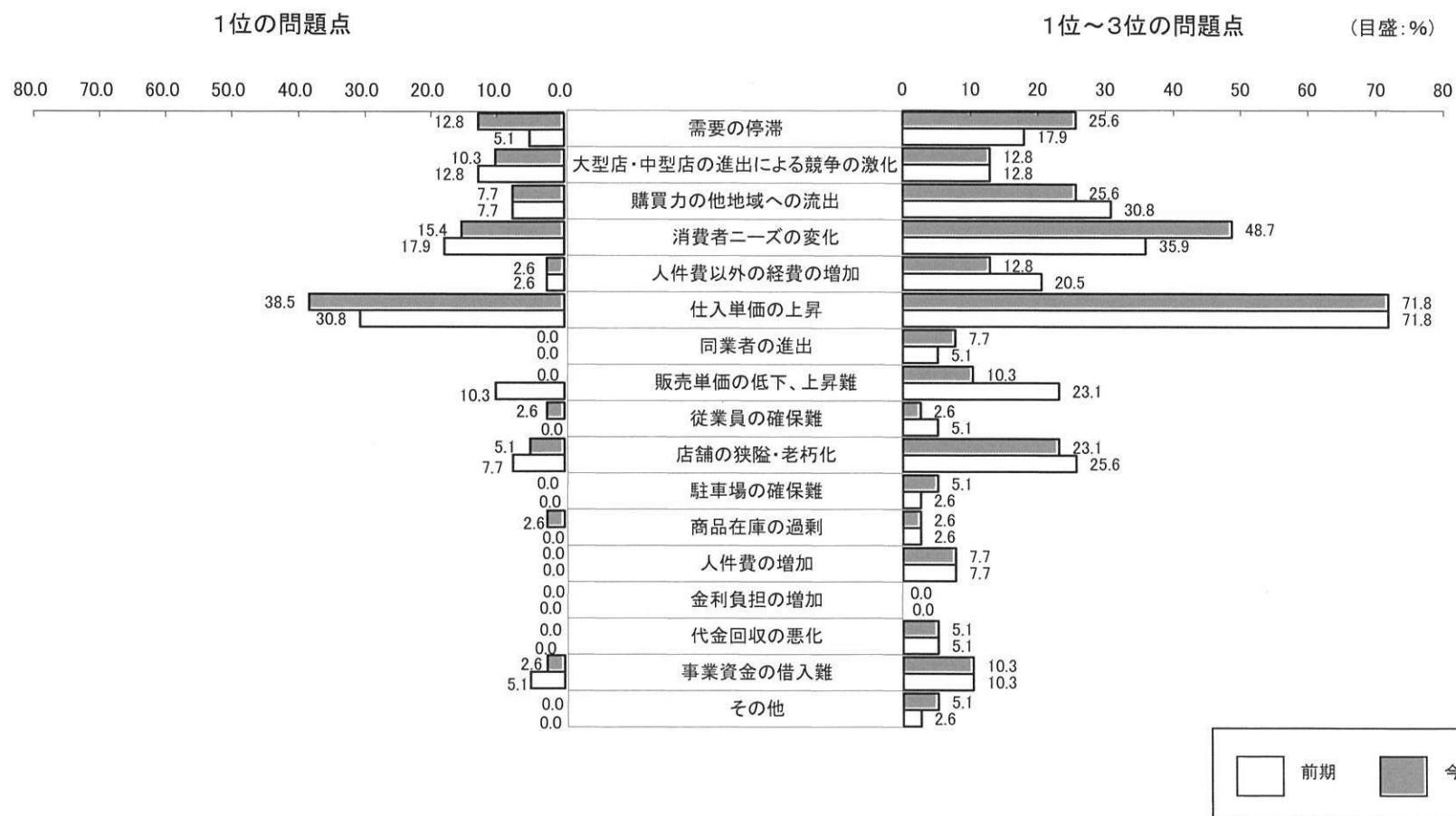
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



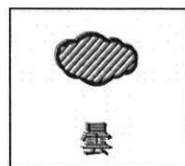
サービス業の推移

売上高

<今 期>

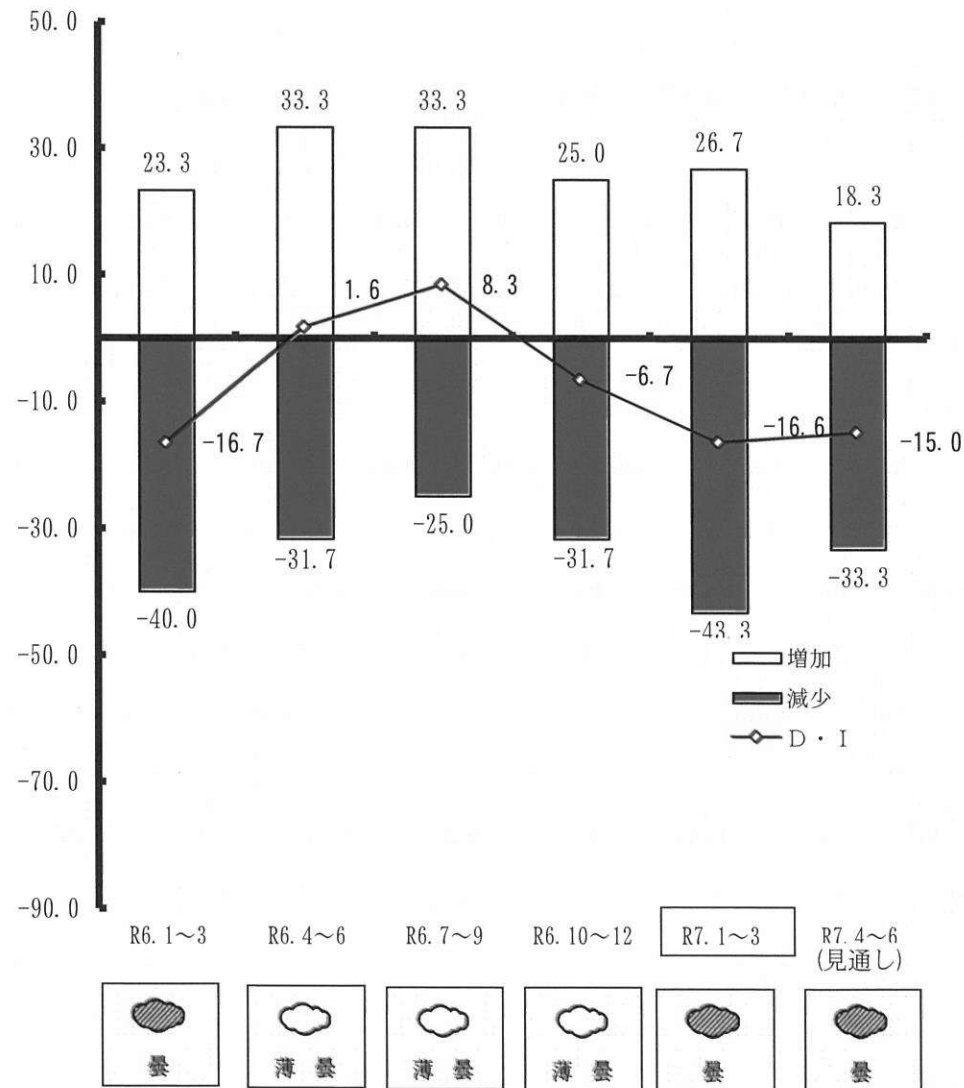


<来期見通し>



今期は売上高増加企業の割合が1.7ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が11.6ポイント増加したことにより、売上高D・Iは9.9ポイント減少してマイナス幅を拡大し、△16.6まで悪化しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少するものの、売上高減少を予想する企業割合が減少幅が大きいことから、売上高D・Iは僅かながら改善することが予想されています。



サービス業の推移

採算

<今 期>

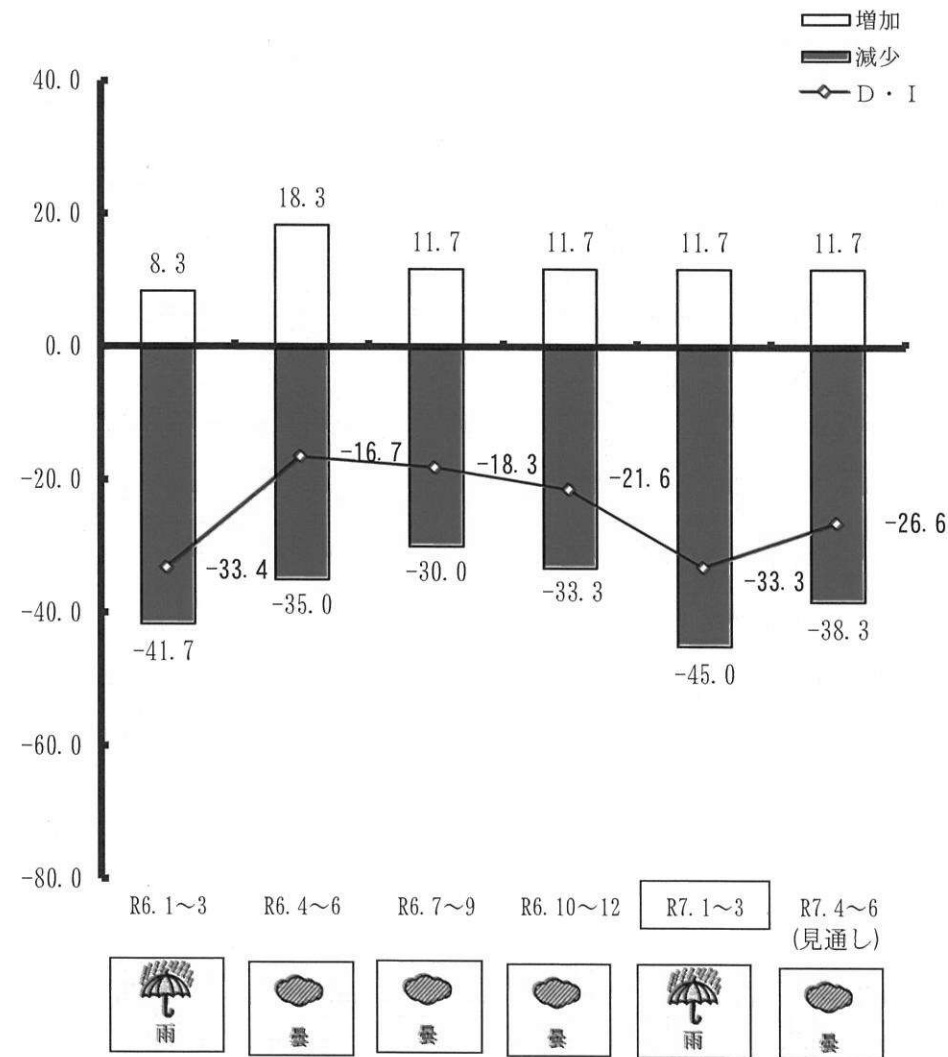


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が前期と横ばいとなったものの、採算が悪化した企業割合が11.7ポイントと大幅に増加したことにより、採算D・Iは減少し、△33.3まで低下しました。

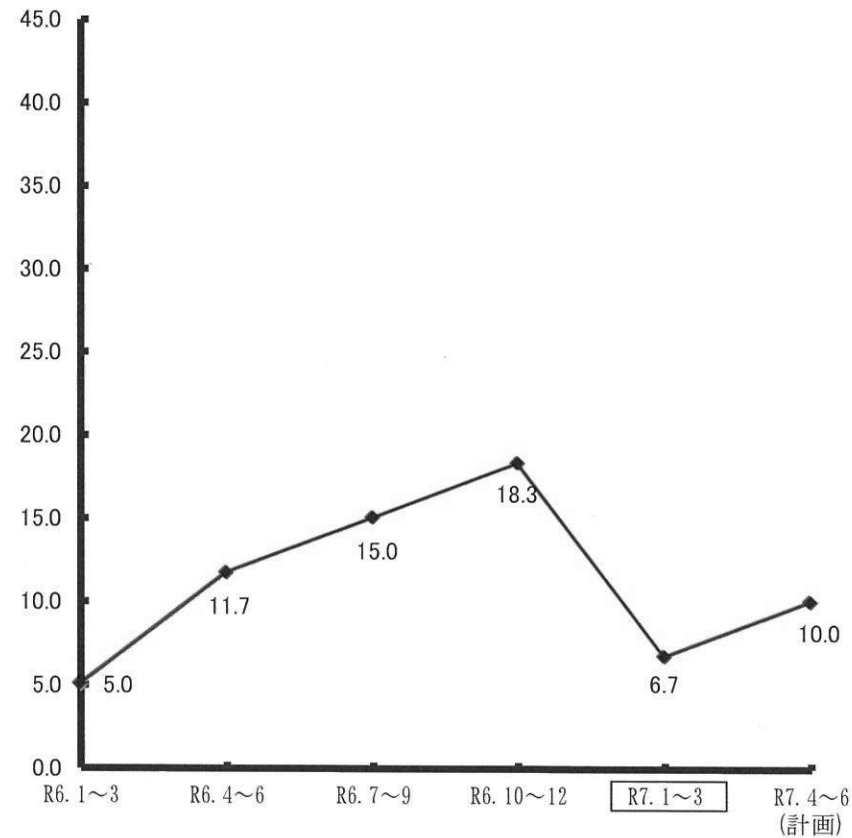
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、3期連続して減少していた採算D・Iは上昇に転じ、景況天気図も雨から曇へと変化することが見込まれています。



設備投資

3期連続して増加していた設備投資を実施した企業数の割合は減少に転じ、11.6ポイントと大幅に減少して6.7まで低下しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び増加することが見込まれ、10.0程度まで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

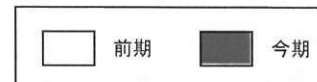
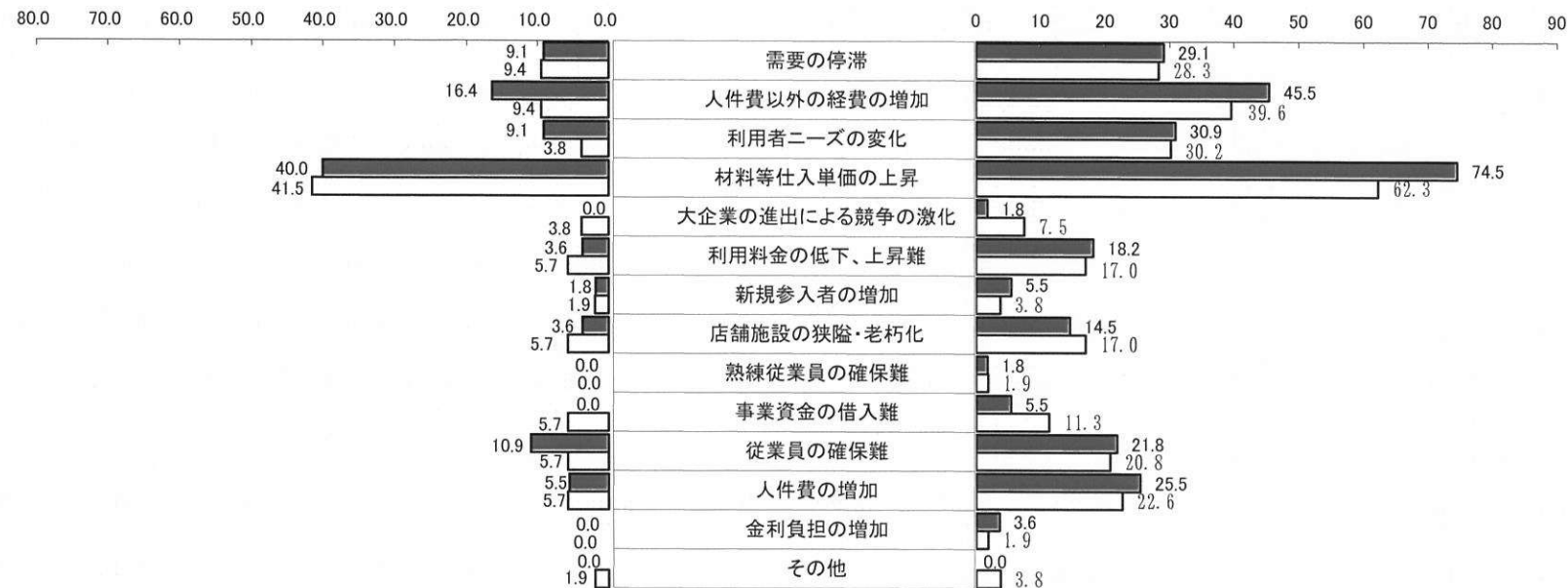
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

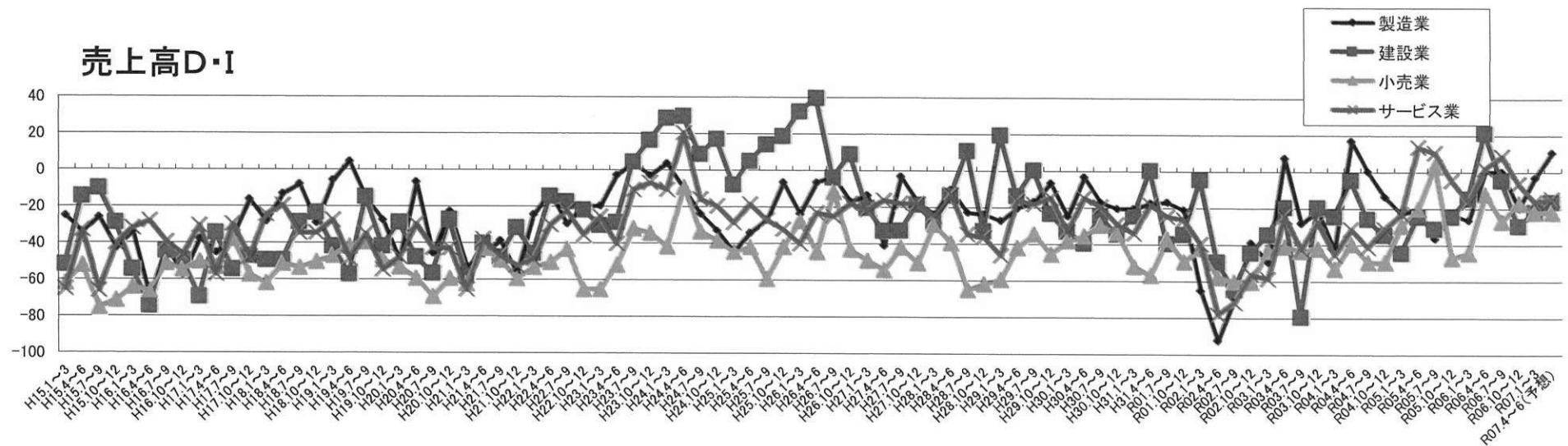
1位～3位の問題点

(目盛: %)

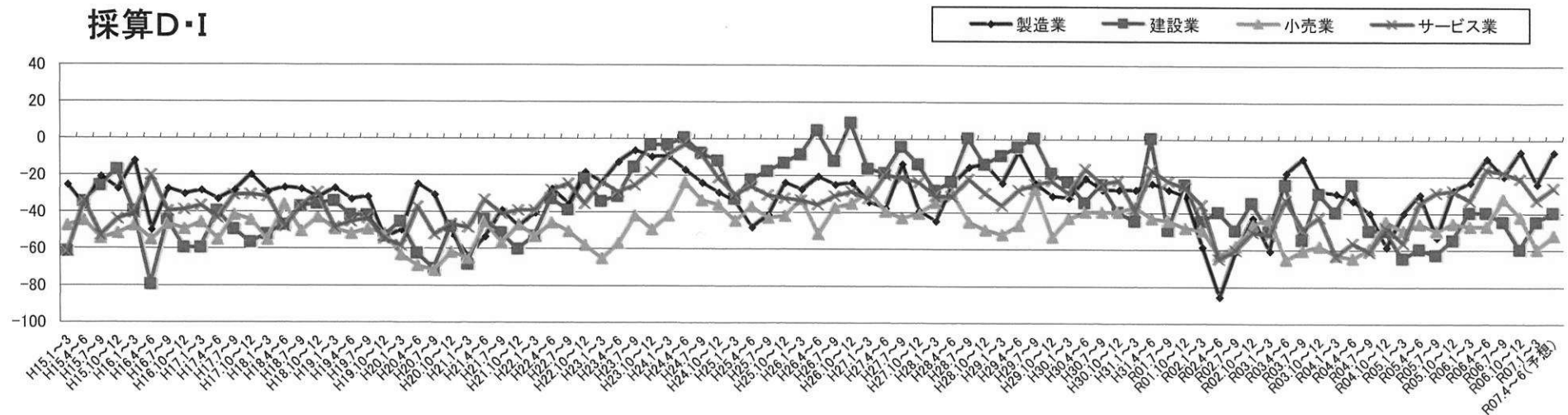


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調查要項

- | | | | | |
|----------------|--|-------------|------------------------------|-----------------------|
| 1. 調 査 対 象 | (1) 対象地区 | 県内 10 商工会地区 | 二戸市、八幡平市、雫石、矢巾町、前沢
(商工会名) | 金ヶ崎町、山田町、田野畑村、野田村、一戸町 |
| | (2) 対象企業数 | 150 | 企業 | |
| | (3) 回答企業数 | 149 | 企業 | |
| 2. 調 査 対 象 期 間 | 令和7年1月～3月を対象とし、調査時点は令和7年3月1日としました。 | | | |
| 3. 調 査 方 法 | (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。 | | | |
| | (2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。 | | | |

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	29 (19.5)	96.7
建設業	20 (13.3)	20 (13.4)	100.0
小売業	40 (26.7)	40 (26.8)	100.0
サービス業	60 (40.0)	60 (40.3)	100.0
	150 (100.0)	149 (100.0)	99.3

(注) カッコ内の数字は、構成比(%)を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。